

と、難しいと思う。





## 榎 政信 議員 … 4 件の一般質問

### 「風土館・美術館」中長期運営計画は如何か マンパワー、施設共に不足している

#### 教育長：学芸員の増員、施設増設は今後の課題

**榎** 両館とも設置10年以上が経つ。

①入館者推移の評価は、

②収蔵能力は充分か。

③学芸員などマンパワー不足のようだが、人員配置計画を伺う。

④展示・普及・研究活動などの中長期計画を伺う。

⑤学校教育との連携、学習支援を伺う。

⑥民間団体との連携状況を伺う。

**教育長** ①両館ともピーク時の半数程度で減少傾向に推移。リピーターの評価は高い。

②美術館は春に収納棚設置工事を施工。風土館は空調設備が脆弱。生物標本への影響を防ぎたい。

③美術館は非常勤学芸員2名、風土館は館長が学芸員を兼務。常勤の学芸員や増員を要望している。

④美術館は、維持管理、展示活動、普及活動、絵画コンクール事業。風土館は維持管理、展示活動、普及研究活動、文化財保存事業を毎年展開し、自己点検、評価を行い事業計画を進めている。

⑤美術館は小中学校の学習授業支援を5回。風土館は5年生の宿泊学習を

支援。昨年から4年生の尻別川のイトウの学習を支援。今後町内全校に支援体制を広げたい。

⑥美術館友の会は欠かせない存在。風土館は百年の森ファンクラブとの連携やニセコ羊蹄再発見の会のエキノコックス駆除を支援。ニセコネイチャーガイドネットワークとも連携を継続中。

**榎** 風土館、現体制で研究や展示活動、子供たちへの教育支援は無理。人員を増強して活動を充実すべき。美術館も同様。これまでの蓄積

を継承する人員配置が必要ではないか。

両館の収蔵庫も狭隘。展示品の受入れもままならない。空き施設の活用も必要ではないか。

**教育長** 学芸員や職員の増員の課題はあるが、役場の他部署も同様に人員不足。教育委員会だけの増員は理解が得られない。

収蔵庫もスペース不足。現施設の横に増設するのが現実的で今後の課題。

**榎** 中長期運営計画で増員や施設増築などを計画的に行うべき。



展示品で満杯の収蔵庫

#### 高齢者の住替え どう行う

**榎** 町長は町民から老人下宿などの高齢者住居の設置への支援を要望されている。高齢者が安心して暮らせる居住環境整備をどう行うか。

**町長** 孤独感や冬の除雪の質を高められるような住まいを空き施設利用を含めて関係機関や福祉法人とも連携し模索していく。

**榎** 可燃ごみの広域化主体的な取組を

**榎** 紙おむつや衛生ごみの処理方法、焼却・炭化から減容分解に変更した理由は、富良野市等では紙おむつの固形燃料化を行う。減容化では資源の循環に逆行するのではないか。

**町長** プロポーザル参加者保有の最終処分場は焼却残渣埋立の許可がない。代わりに減容分解の提案を受けた。紙おむつ燃料化装置の処理量不足もあり検討から外していた。今後の検討材料のひとつである。

#### 水資源の保全 どう対応するか

**榎** 尻別川西部地区の山田、旭、花園地区などに水資源保全の地域指定が必要ではないか。自主条例による規制・協議施設の設定や大量取水制限など独自の取組みが必要ではないか。

**町長** ワイス水源は国有林内、冷水川水源は国定公園内で事前規制や関係法令があり保全地域の指定を見送った。

現時点で独自の自主条例制定は想定していない。国や道の法整備の推移を見ながら研究を続ける。

**榎** 山田、花園には民設の専用水道もある。これらの保全指定をどう考える。無指定地域は助言も協議もできない。地域指定しても助言できるが拘束力がない。

**町長** 第一回目の指定で担課あった。他の水源も必要性について今後精査していく。

**榎** 拘束力がないから自主条例で規制する。研究の継続を望む。









## 田中 義人 議員 … 2 件の一般質問

### 北海道横断自動車道倶知安延伸の取り組みは

#### 町長：オール後志体制で要望活動を進める

**田中** 去る7月25日、倶知安町で開かれた高速道路シンポジウムには、周辺市町村から関係者300名が集まり、関心の高さが示された。冬期災害、交通混雑の緩和、災害時の避難経路など効果が期待される。実現に向け、どのような取り組みを行っていくのか。

**町長**

今年度の北海道横断自動車道黒松内・小樽間の建設促進、特に余市・倶知安間の早期事業着手についての要望行動が、後志総合開発期成会において5月22日に小樽開発建設部、28日に北海道開発局、30日には国土交通省等で、新規事業化の要望をしてきた。

その後も非常に短い間隔で上京しながら、道内地元選出国会議員、国交省、財務省等と連携を保っている、況である。

**民間側 町長**

商工会議所や建設業協会等で構成される北海道の地域と道をつなぐネットワーク連携会議において、6月17・18日、8月7・8日

と中央要望活動を行っており、まさしく官民連携のもとに中央官庁に要望活動を推進している。今後の要望活動に関しては、倶知安町のみならず沿線市町村と連携を進め、オール後志態勢で要望活動を鋭意進めていく。

**田中**

観光のみならず、本町への新たな産業呼び込み、企業誘致には必要不可欠になり、新幹線以上のインパクトを与える大きなものだと思う。

周辺自治体、議会とも連携の上、実現するよう努力願う。

#### 学校給食センター建設の方向性は

**田中**

①財源は。②給食に限定しない総作長センターにはならないか。③民間業者との連携の可能性は。

**町長**

①事業費に対する有効な補助等がなかなか見つからない状況。施設更新の必要性は認識しているが、事業費12

億7000万円は本町の財政状況から厳しい。町全体の公共施設整備等からすると、厳しい財政事情ではあるが、適正な縮減額を示し、財源手当てにめどをつけた暁には、移転改築事業を速やかに実現したい。

②病院などとの連携は個別対応の必要性から難しいと考える。本町では、あくまで学校給食センターとしての整備を進めている。

③PPP・PFI制度は北海道の自治体には馴染まないようだ。指定銀行の北洋銀行か



施設更新が急がれる学校給食センター

らレクチャーを受けたが、賛否の結論は出ていない。

**教育長**

②公設であろうが、民設であろうが、補助が入るうがなからうが、また単純に調理工場であろうが、学校給食を提供する限り、学校給食法による基準等々が適用される。

また、基準に満たない施設には、仮に給食を委託するという考えでも、そういう施設にはならない。

学校教育の観点から、学校給食法等の規則に沿ったセンターの整備を

進める。③PPP・PFI制度等の民間との連携について、平成13年度合併研究会での協議のころから、広域化・共同化の検討や手法の検討、もちろんPFI（旧法のPFI）、いわゆる延べ払い形、年賦で支払っていく手法論が当初あったが実現しなかった。

**田中**

保育所や中学校跡地利用など山積している様々な公共施設更新がある中、最優先という給食センターの財源を提示できないというのは財政管理上おかしいのではないか。提示時期を示すべき。

**町長**

12月定例までには示したいと思っている。



## 伊達 隆 議員 … 2 件の一般質問



### 平成 25 年度の防災訓練計画内容は

町長：大規模停電における対応をテーマとした訓練



原子力防災訓練実施本部

**伊達** 「平時にできないことが有事にできるはずがない」と言われている。

昨年の防災訓練で、いくつかの反省点があった中で、平成25年度防災訓練の内容は。

また、平成25年度北海道原子力防災訓練の日程等について、周知方法は。

**町長** 今年の防災訓練の時期は、平成26年3月中旬とし、昨年の反省を踏まえて実施する。

今回は、登別市や室蘭市方面で発生した、冬期

の大規模停電時における対応をテーマとして訓練する方向で調整している。

内容の詳細については、時期が近づいたら示したい。

防災無線の正式な運用は、平成26年4月1日だが、来年3月中旬の防災訓練にテストを兼ねて使用する考えである。

また、本年度の北海道原子力防災訓練は10月8日に実施するが、訓練内容は自宅等への屋内退避訓練を予定している。詳細については、町広報紙10月号で周知する。

### 町営花園牧場の運営

**伊達** 本町の酪農畜産業振興にとって、重要な役割を担う牧場での飲料水の確保は、重要案件の一つである。

今日、牧場の西側でも開発行為が行われているが、牧場の牛の飲料水が十分な水量と水質、また安全・安心な環境が確保されるよう、将来を見据えた対応・対策が必要と考えるが町長の見解は。

**町長** 牧場運営に当たって、重要なものとして牛の飲み水の確保がある。

現在、牧場内の飲み水は、2カ所の取水場所がある。その1カ所に隣接する民有地で開発行為が進められている。

また、開発行為とは別に温泉を掘削し、宿泊施設に利用する計画が出されている。

この開発計画を受けて、町職員・ようてい農協・酪農組合長など関係者で現地確認を行い、その際に酪農関係者から、口蹄



花園牧場 ～牛の飲み水の確保が心配される～

疫等の伝染病やごみの投棄が懸念されることから、湧水源にコンクリート柵の設置と浄化槽排水や温泉水の水質検査の要望がなされた。

その後、開発業者から提出された温泉分析表を確認したところ、人が飲んでも問題ないという結果から、当初計画通り牧場内を流れる硫黄4号川に放流したいとのことだった。

また、浄化槽排水は国の基準を満たし、温泉排水も排出基準を満たしていることから、排水協議についてこれ以上の進展は望めないが、今後も必要に応じて開発業者と協議を行う。

町としては、牛の飲み水の確保が最重要課題と考え、湧水場所に取水柵の設置工事を最優先に取り進める。